

新たな北海道総合開発計画への提言

平成27年(2015年)5月20日

札幌市立発寒西小学校 校長 新保元康

1 自己紹介

- ・札幌市の小学校で34年間勤務(社会科と総合的な学習を中心に教材開発)
- ・北海道雪プロジェクト 道プロジェクト 交通環境教育 公共事業と教育の橋渡し

2 問題意識

1) 北海道への関心・愛着・知識が育てられていない

- ①「人間は12歳までに覚えた味が“おふくろの味”になる」藤田田(マクドナルド)
- ②「北海道」の「味」(魅力、課題、歴史、背景…)を覚えさせているか?
- ③「北海道」の「心」(ふるさとを愛する心、ふるさとに貢献する心…)を育てているか?
- ④「北海道」の「学」(地理、歴史、産業構造、インフラ…)を学ばせているか?
- ⑤「北海道人」としての意識が育っているか?
(「私」「日本国民」「地球人」という関心は大きい、「北海道人」という自意識希薄?)

2) 小学校での北海道に関する学習の現状

- ①「北海道」という学習が弱い(4年生で実施 特色ある地域を選択して学習するだけ)
- ②昔は「わたしたちの北海道」(北海教育評論社)という副読本が使われていた。
 - ・北海道開発についても記述あり 「客土」などを学習)
- ③社会科の学習時間の減少
 - ・S46 学習指導要領 663 時間(1-6年) > H23 学習指導要領 365 時間(3-6年)
- ④総合的な学習(280時間(3-6年)の実践が停滞気味

3) 「公」についての学習が不十分

- ①そもそも日本の国土の脆弱性についてほとんど学習されていない
 - ・国土形状 島に分割 脊梁山脈 小さな平野 軟弱な平地、地震、台風、雪、豪雨…
- ②公共事業の成果についても学習されていない
 - ・例 道内国道の舗装率 昭和36年20%以下→今は100%
 - ・防災についてもインフラの果たす役割が十分理解されていない
- ③隠れたカリキュラム(教師の関心・意識=公共事業に否定的・無関心)の存在
 - ・教師の意識「公共事業に悪イメージ」63% 「公共事業について学んだ経験なし」64%
 - ・表のカリキュラムと同じような伝搬力がある
- ④個が公に果たすべき役割を十分学んでいない
 - ・まちづくりに貢献した人々学習の不足 ・過度な個性重視の風潮

3 提言

- 1) 総合開発計画に教育の項目を入れる
- 2) 社会科や総合的な学習で活用できる「北海道学」カリキュラムを作成
 - ・国土交通省、北海道、北海道教育委員、民間有識者の力を合わせて作成
- 3) 優良な「北海道学」の実践を表彰
 - ・上記カリキュラムに基づく優良実践を広く広報する
- 4) 新たな副読本「わたしたちの北海道」作成
 - ・上記カリキュラムで使用する「北海道の準教科書」として位置づけ
- 5) 北海道のインフラに関する教師研修の実施
 - ・現場での見学や実習インフラの意味を知らせる
- 6) 児童向け「北海道学」HPの作成
 - ・様々なメディアを使った戦略的な広報活動